

福祉教育NOW

編集・発行 (社福)新潟市社会福祉協議会ボランティアセンター
〒950-0909 新潟市中央区八千代1-3-1 新潟市総合福祉会館内
TEL: 025-243-4370 FAX:025-248-7180 Eメール nc-vorasen@ams.odn.ne.jp
HP <http://www.syakyo-niigatacity.or.jp/> ブログ <http://borasen.blog113.fc2.com/>

福祉教育をどう進めていますか? 「先生がんばれ」特集!

「総合的な学習の時間」に精一杯取り組んでいる先生方……。生徒にとって意味のある学習にするために、日々格闘されていることと思います。今回は、そういった先生方に対して応援の意味を込めて内容を計画しました。

内容は、「対談」、「収集活動の案内」、「学校における福祉教育のQ&A」などです。参考にしてみてください。

対談

「学校における福祉教育ワンポイントアドバイス」

(話して) 特定非営利活動法人自立センター新潟
事務局長 遁所 直樹 さん
〈介護支援専門員、社会福祉士 等〉
(聞いて) 新潟市社会福祉協議会ボランティアセンター
所 長 高橋 桂子

総合学習のゲストティーチャーとして様々な学校でお話をされている遁所直樹さんに「学校における福祉教育のワンポイントアドバイス」についてお聞きしました。

(高橋) 小学校以外にも、大学生や短大でもお話しされていますが、大学生と小学生では伝える内容も異なると思いますが、どんなことに気をつけていますか。

(遁所さん)

基本的には同じですよ。小学生の皆さんには「障がいとは何か?」という事を話すより、車椅子のおじさんとしてのお話しが良いと思います。中学生になったら「バリアフリー」という言葉の内容を知ってもらいたい。高校生は「権利擁護、差別とか偏見」という点について教えていきたいと思っています。大学生は「障害学」というところまでまとめて欲しいと思います。大学で話す場合も、基本的には小学生に伝えている初心者の内容を深めて行っているだけです。



下手に専門用語ばかり話していると、学生さん達は睡眠学習になってしまう。紙芝居として用意するパワーポイントの内容についてはどの年代でも同じです。

(高橋)

学校でのお話の組立方について教えてください。

(遁所さん)

10年前は「車椅子利用者が生きるとは」という自分や家族の話をしていました。その後、アメリカにいたり、様々な方々との出会いの中で、「まちづくりに関する話し」、「障がいを持った人々の関わりの中で感じたバリアフリー」、自分が日々学んだことを書き出して、そのまま組み立て話していました。その後、高齢者施設での相談業務に携わる中で、「高齢者は障がいを受容していない」「人は高齢になると、みんな障がい者になるんだよ」という話しをした時期もありました。

その後は「偏見・差別」ということを福祉教育の中で

伝えるようにしています。これには理由があって、以前は知的障がい者について、「彼らはトイレも食事も自分でできるから、身体障がい者より障がいが軽い」という考えを持っていました。しかし、彼らと実際につきあってみて、「私たち身体障がい者は重度障がいだけれども、見守りというところから考えると、もっと見守りが必要な人たちがいるんだ」という事に気付き、この部分の話の中に取り入れるようにしています。

(高橋)

学校から来た依頼について、困った事例についてお聞かせくださいませか。

(遁所さん)

困ったというか、何故こうなるんだろう？という例についてお話しします。特別支援学級（当時は特殊学級）がある学校から依頼を受けてお話ししたことがあります。同じクラス内に障がいがある生徒がいるのに、何故、私とか、外部の障がい者を呼んで学習する必要があるのだろう、ということです。

私のことを知っていて依頼していただくのは嬉しいのですが、ボランティアセンターに講師依頼する前にまず考えていただくことがあるのではないのでしょうか？私の思いは、総合学習の時間に外部講師を呼ぶよりも、同じクラスの仲間とどう関わっていったら良いのか、いうことをみんなで考えて頂きたいと思うのです。

そうはいつでも、先生方は総合で何をどのように取り組んだらわからないわけですね。こういった依頼の場合でも、学習を2回・3回と重ねていく中で、先生方も発見していただきたいと思います。それが大切なのであって、そのためなら喜んで行きます。

(高橋)

遁所さんのお話に対して、生徒さん反応はどうか？

(遁所さん)

反応は色々ですが、「遁所は働いている」とことに対する驚きが一番ですね。生徒さんから「どんな仕事をされているんですか？」と質問がでると、あー障がい者が働くいうことは、まだまだ当たり前になっていないんだな、と感じます。

また、学習の中で、子ども達が質問してくれると、自分自身の中で気づきが生まれます。今回はそこに重点を置いて話せば良いとかがわかります。だから先生から「あーしてください。こうしてください」という計画されたプログラムよりも、アドリブというか、そういったことが気づきとなり、自分の勉強になると思います。

(高橋)

こういうプログラムを提案したい、一押しというものがありませんでしたら、教えてください。

(遁所)

ボランティアセンターと一緒にやる取り組み。パターン化されたけれど、崩せない部分ですね。



それから、ひとつ関心したことがあるのですが。ある学校では「自分たちはこれから何を中心に学習していったら良いのか」という問いかけに対し、丁寧に対応してくれた先生がいました。学びたいテーマをしっかりと考えさせ、それを自分たちの力で学ばせ、実践していったのです。私の話は「福祉が核」だけれども、生徒さんそれぞれ色んな核をもっていて、福祉と関係なく、「鳥屋野潟の水質調査したい」「清掃センターに行きたい」「消防署にいきたい」という希望が出てきたのです。生徒に対し「そうだね。みんなの考えたことは全て福祉につながっているよ。福祉は障がいのある人のお世話をすることだけではなく、みんなが幸せになることだよ。」と伝えました。この投げかけに対し、先生が実践してくれて、一冊の本にまとめてくれたのです。

私が答えたことに対して、生徒や先生がどこまで取り組んでいくことができるのか。

(高橋)

最後になりますが、「かならずこれだけは話しの中に入れていられる」ことがありましたら、教えてください。

(遁所)

そうですね。「感性を豊かにし、人を思いやる気持ちを持ってください。」ということですね。

(高橋)

大変参考になりました。本日はお忙しい中、ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。

収集活動の案内

アルミ缶、使用済み切手、書き損じハガキ、使用済みプリペイドカードの他にも色んな収集活動があります。注意したいことは、この収集活動を何のために始めるのか、「活動目的」やどこでどんなことに役だっているのか「活用方法」などをよく調べてから始めることが大切です。

1. 「エコキャップ運動」

普段飲み慣れているペットボトル飲料がありますが、それらに使用されているキャップは良質なプラスチックで作られているため、リサイクルする事が可能です。ペットボトルキャップ800個を集め、リサイクル団体に送ると、ポリオ（小児麻痺）のワクチン1人分を購入することができます。

<ポイント>

- 小さなキャップでも、分ければ資源リサイクルして価値のある材料に・・・。
ゴミとして焼却処分されますと、キャップ400個で3,150gのCO₂が発生します。
- ペットボトルのキャップをみんなで集めよう
キャップは400個で10円になります。
- ポリオワクチンは1人分20円
20円で子どもの命が救えます。
- ごみが減らせます。（資源になります。）

<収集方法>

- ①収集団体に「キャップ」を送る。（要送料負担）
- ②リサイクルメーカーに「キャップ」の購入を依頼
- ③「キャップ代金」をワクチン日本委員会（JCV）（寄贈団体）等に寄付
- ④ワクチン日本委員会（JCV）等から「ワクチン」を必要としている子ども達へ

<連絡先>

まず、ホームページで「エコキャップ」を検索して下さい。各団体ともお問い合わせが殺到しており、電話の前にホームページでご確認ください。

- ①グループMATE（マテ）代表 大久保さん
- ②（株）熊谷環境サポート エコキャップ 埼玉流通センター
- ③エコキャップ推進協会（担当）永田さん
- ④新潟市役所ボランティア研究会 代表 三林さん

★収集の拠点となる団体も求めているようです。

2. 「割り箸回収活動」

これまで廃棄物として扱われた「箸」を紙資源としてリサイクルしている企業をご紹介します。

<ポイント>

ゴミを減らすと同時に、これまで「廃棄物」として扱われた「箸」も、大切な資源として生まれ変わります。（換算すると）

割り箸だけで紙製品を作ったと仮定した場合の換算値はおおよそ下記のとおりです。

○割り箸 10kg（約2,500膳）

→BOXティッシュ（15箱）

○割り箸 3膳（6本）

→はがき（1枚）、またはA4サイズのコピー用紙

<流れ>

○回収企業に送る。（要送料負担）

段ボール箱にまとめて下さい。

- ①段ボール箱（内側に、ポリ袋は使用しない）
並べ入れ、極力空間ができないようにする。
- ②特に汚れていなければ洗浄はしないで結構ですが、カビ発生現象のためには行ってください。
この場合、よく乾かしてください。



③企業で他の製品に生まれ変わります。

<連絡先>届ける前に、まず、お問い合わせください。

①北越製紙（株）新潟工場 パルプ課

TEL：(代) 025-273-1141

★下記については、ホームページで確認してから、お問い合わせください。（※実際の送り先 ※印のところ。）

②王子製紙（株）環境経営部

〒104-0061 東京都中央区銀座2-10-6

TEL：03-3563-7020

※新潟県から一番近い工場を紹介します。

「中越緑化（株）」原材料部 原料課 宛

〒933-8533 富山県高岡市米島282 Tel0766-26-2409



福祉教育についてのご相談は、

社会福祉協議会が承ります。

新潟市社会福祉協議会、各区社会福祉協議会では学校における福祉教育に関する相談を受けております。

具体的な計画をたてる前から構いませんので、どんな目的で、どのようなことをしたいのか、社会福祉協議会に相談してみてください。

また、車椅子、点字練習機、白杖・アイマスク・ボランティアかるた、視聴覚教材等の貸し出しも無料で行っておりますので、お気軽にご利用ください。

(注：貸し出しできる備品は、各区で異なります。)

社会福祉協議会が対応できるものの例

各区によって内容が異なりますので、ご了承ください。

- 福祉教育に関する企画から実施迄のトータル的な相談。
- 社会福祉協議会職員の派遣。
講義、ボランティア講座、車椅子体験、手話講座
アイマスク体験、高齢者疑似体験、ワークショップなど
- 社会資源の情報提供、紹介
社会福祉施設、障がい当事者等の講師、ビデオ教材など
- その他

各区社会福祉協議会ボランティアセンター連絡先一覧

北区社会福祉協議会	025-386-2778
東区社会福祉協議会	025-272-7721
中央区社会福祉協議会	025-243-5099
江南区社会福祉協議会	025-385-4321
秋葉区ボランティアセンター	0250-25-3740
南区ボランティアセンター	025-373-3223
西区社会福祉協議会	025-377-7788
西蒲区ボランティアセンター	0256-73-3356
新潟市ボランティアセンター	025-243-4370

学校における福祉教育についての Q&A

- (Q) 車椅子体験、アイマスク体験ではなく、もっと違うことをやりたいのですが。
- (A) 車椅子体験をアレンジすれば効果的な学習に。「障がいて何？」というテーマでスタートし、このテーマに対して事前学習（お話・ワークショップ）→体験→振り返り（お話・ワークショップ）→実践活動（車椅子で買い物したり）→体験の振り返りの中で、社会には様々な「障がい」があることに気づき、普段の生活の中でまわりとの関わりを見つめ直せます。大事なことは「充実した振り返り」です。
- (Q) 福祉教育というのは福祉のみをテーマにして学習することですか？
- (A) もっと福祉について、ひろく考えてみませんか。環境に関する学習から食糧問題へ、それが福祉課題へ。防災に関する学習をする中で、地域の福祉課題が学べたり、人権問題を学習する中で人々の幸せについて学べたりします。どんなテーマを選んでも全は福祉につながっていますから。
- (Q) 「福祉学習」って言われても、どんなことから始めたら良いのかわかりません。
- (A) 特別なことをしなくても構いません。例えば、「福祉」とい言葉から連想する事柄を挙げていき、生徒一人一人の抱いているイメージを共有します。並べた言葉からさらに浮かぶ言葉をつなげましょう。
- その後、自分は今までどんな人に支えられてきたかを出し合い、「福祉」は生徒自身にとっても関わりのある事に気付いてもらう。人は色々な人に支えられて生きていることを学びます。
- (Q) 取り組みについて、具体的な方法を教えて。
- (A) 学校を会場に地域の方々に呼びかけて防災訓練をやってみませんか？訓練といっても、レクリエーションを取り入れ、楽しく学習することもできます。また、身近な「福祉」課題を取り上げ、それを劇に仕上げ、地域で発表してみませんか？

などなど・福祉教育に関して、私達社会福祉協議会の職員と一緒に考えてみませんか。